



# 風の子

糸魚川市立木浦小学校

H30 学校だより No.11

平成 30 年 10 月 25 日 発行



野バラの実

## つなごう

校長 富永 浩文

木浦わくわく文化祭にお越しいただき、また、子どもたちの発表に対して、温かい拍手、たくさんの笑顔、励ましの言葉をいただき、心より感謝申し上げます。地域の皆様の作品、熱演も、心に響き、染み入るものでした。出品、出演いただいた皆様、ありがとうございました。子どもからお年寄りまで、地域ぐるみの文化祭は、世代を超えた人と人との心をつなぐ大切な場として、今後も木浦地域に残していかなければならないと心から思いました。

さて、朝日新聞の「折々のことば」(2018.8.4)に、次のような一節がありました。「ボールを投げたとき指にかかった負荷ではなく、むしろ、投げ返したあとに、まだグラブの中の掌(たなごころ)に残っている感覚のほうが重要」(堀江敏幸 小説家)

私たちは、日常的に言葉のキャッチボールをしています。また、いろいろな方法で思いを表現したり、受けとめたりしています。この時、自分のことを話したり、思いを表現したりする反面、相手の話したこと、思いを大切に受け止めているでしょうか。

自分の投げた(投げ返した)言葉や表現した思いに責任をもつことは大切です。しかしそれ以上に、自分が心(手のひら)で受け止めた相手の言葉や思いを大切にしたいと思います。素晴らしい言葉や表現に込められた思いをじっくり味わったり、余韻に浸ったりすることが大切ではないかと思えます。そして、その繰り返しが人の心と心をしっかりとつなぎ、結び付け、絆が深まるのではないかと思えます。

文化祭は終わりました。温かさと感動の余韻を残しながら。そしてまた、日常の学校生活が始まりました。そんな中ですが、週末には木浦ふるさとコンサートが予定されています。ピアノ、バイオリン、口笛、声楽、4人の音楽家の方が演奏に来てくださいます。プログラムのエンディングで、全員で歌う「つなごう」という歌があります。糸魚川大火からの復興への思いを込めた歌です。以下、歌詞の一節です。

「そこに思いある限り そうだ思いある限り

この胸に今誓うよ つなごう つなごう 未来へ」

私たちも、一人ひとりの思いはちがいますが、大切なふるさと木浦への思いを未来につなげていきたいですね。演奏家の奏でる美しいメロディーとともに、歌詞に込められた思いをじっくり味わいませんか。ご来校をお待ちいたしております。(13:30開演 15:00終了)



声楽家渡辺直人さんと練習